

第3回 茅ヶ崎海岸グランドプランまちづくり協議会

日 時：平成18年10月14日（土）午後6時～8時30分

場 所：茅ヶ崎市役所 大会議室

参加者：34名

議題

1. 茅ヶ崎海岸グランドプラン土地利用方針等（中間報告）に関する意見集約結果報告及びグランドプラン検討の進捗状況報告

① 中間素案等に対する意見とその対応

9月1日～19日の間に市民から募集した中間報告素案に対する意見とその対応について

- ・ 土地利用方針等、中間素案段階のものを極端に否定する意見は出されなかった。
- ・ 自然環境の保全にあたり今後の規制のあり方に対する関心が多かった。

② 審議会中間報告書案に対する意見とその対応

茅ヶ崎海岸グランドプラン推進会議において出された中間報告書（案）に対する意見とその対応について

- ・ マンション建設の計画、国有地の払い下げ問題等、茅ヶ崎海岸グランドプラン策定の背景について、多くの指摘があった。
- ・ 出された意見については、中間素案で全て対応している。

2. パネルディスカッション

テーマ：「市民参加による景観づくりを考える」

① 国吉 直行氏（横浜市都市デザイン室）

（講演内容）

◆みなとみらい、横浜中華街における景観づくりについて

- ・ 景観づくりにおいては、地域の人々がその景観を大切にしたいという気持ちが大切である。
- ・ また、行政もそれに対して行動していくことが大切である。
- ・ 中華街でのマンション問題。⇒中華街は観光地であり、居住地ではないという考えがあり、マンション用地を購入し解決した。
- ・ 中華街の入り口に設置された大型ビジョンが中華街の景観を破壊する新たな問題として発生している。

② 長谷川忠好氏（株式会社山手総合計画研究所）

(講演内容)

◆茅ヶ崎駅北口周辺の景観まちづくりについて

◆江の島の漁港における景観づくりについて

- ・ 計画づくりにおいては、以下の3点が大切である。
 - 1) 合意形成⇒経済活動と景観は一致しない。
 - 2) 実現性の確認⇒運用、管理、指導
 - 3) イメージの共有⇒修正と強化、緩和
- ・ 景観づくりでは、市民活動の持続性も重要なポイント。

③ 藤本 辰也氏 (茅ヶ崎・浜景観づくり推進会議)

(講演内容)

◆茅ヶ崎海岸の景観づくりについて

◆大内宿地区における景観づくりの事例紹介

- ・ 都市の景観と海岸の景観は違う。
- ・ 国有地払い下げや海岸地区において建築物の高さ規制が無いことが問題である。

④ 高見澤和子氏 (まち景まち観フォーラム・茅ヶ崎)

(講演内容)

◆活動報告 (富士山のある茅ヶ崎の風景プロジェクトについて)

- ・ これまでの活動については、1)市民でなければできないこと、2)活動によって人の輪が広がること、この2点が達成できるかということを中心に考えて行ってきた。
- ・ 市民がやるべきことをやり、行政もやるべきことをやる。ということが大切。

3. 会場からの意見

○ 地元発意の形成ポイントについて

⇒市民の強い意志、活動の仲間を増やしていくことが重要。(国吉氏)

⇒プライベートな空間をパブリックな空間にしていく。(国吉氏)

○茅ヶ崎海岸の景観づくり。今後の関わりについて

⇒海岸のあり方について今後も引き続き検討する。(折原氏)

○国有地の払い下げや建築物の高さ制限等の対応

⇒一般財産化して借地する方法もある。市が間に入って借地にする。(藤本氏)

⇒パブリックユースへの誘導。

⇒昭和48年に行われた都市計画法の改正では、容積緩和が国の方針としてあった。

(国吉氏)